国語(現代文・古文)　京都大学　理系学部　（前期）　１／３

＜総括＞

出題数	現代文　２題・古文　１題	試験時間	９０分

・短編小説とは、なんらかの思想に基づく長編小説とは異なり、作者の捉えたイメージを時間をかけて醸成させ、読者に素早くそのイメージを印象づけるために緊密な文章表現を必要とすることを述べた文章からの出題。
・本文の分量は昨年度よりかなり減少しており、また読みやすい文体でもあり、受験生にとっては昨年度より取り組みやすいと思われる。ただし、漢字問題の出題がなく、すべて説明問題となり、解答欄の分量も昨年の１１行から１４行に増加している。難度は、ほぼ例年並。
・昨年同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問五がなく、全四問の出題となっている。

＜本文分析＞

大問番号	一
出　典（作者）	阿部昭『短編小説礼讃』
頻出度合・的中等	1993 年度後期試験で同一著者による『散文の基本』が出題されている。
分　量前年比較	**分量（減少・変化なし・増加）**
難　易前年比較	**難易（易化・変化なし・難化）**

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
一	評論	問一	記述式	標　準	傍線部の理由を説明する問題（解答欄３行）
		問二	記述式	標　準	傍線部の内容を対比的に説明する問題（解答欄３行）
		問三	記述式	標　準	傍線部の理由を説明する問題（解答欄４行）
		問四	記述式	標　準	傍線部の理由を、後の二つの段落を踏まえて説明する問題。（解答欄４行）

※難易度は５段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

・たんに字面を追うだけの読みとりでは高得点は望めない。文章の主題や筆者の主張を本文全体から的確に把握するとともに、個々の文脈を精確に押さえる読解力が不可欠である。
・また、設問の意図をふまえた上で、理解した事柄を簡潔・的確に表現してみるといった訓練も欠かせないだろう。
・なお、書き上げた自分の答案を音読して、解答の構成や表現が適切かどうかを確かめることを、普段の学習に取り入れてみよう。文章表現の訓練の一助となるはずだ。
・昨年度とは違い漢字の設問はなかったが、読解力養成の前提として、漢字の知識の蓄積を怠らないこと。

© 河合塾　2015 年

国語(現代文・古文)　京都大学　理系学部（前期）　２／３

＜総括＞

出題数	現代文　２題・古文　１題	試験時間	９０分

・大問二は、現代社会における情報の必要性と、それがはらむ危険性について述べた文章。昨年に比べ、解答欄の分量が全体で３行増えたが、難易度は例年と変わりはない。

＜本文分析＞

大問番号	二
出　典（作者）	清水幾太郎『流言蜚語』
頻出度合・的中等	なし
分　量 前年比較	**分量（減少・変化なし・増加）**
難　易 前年比較	**難易（易化・変化なし・難化）**

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
二	評論	問一	記述式	標　準	傍線部の理由説明問題（解答欄４行）
		問二	記述式	標　準	傍線部の内容説明問題（解答欄３行）
		問三	記述式	標　準	本文を踏まえ、傍線部の理由を説明する問題。（解答欄５行）

※難易度は５段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

・二は、理系の単独の出題であるが、理系の受験生にとって問題の水準は決して平易とはいえない。したがって、二の対策学習を特別におこなうというよりも、共通問題一のレベルに焦点を合わせて学習しておきたい。
・どのようなジャンルの文章であれ、単に字面を追うのではなく、その主題を本文全体から的確に把握すると共に、個々の文脈を精確に押さえる読解力と、その内容を整理し適切に説明する記述力が不可欠である。

© 河合塾　2015 年

国語(現代文・古文)　京都大学　理系学部（前期）　３／３

＜総括＞

出題数	現代文　２題　・　古文　１題	試験時間	９０分

・理系の問題文は、これまで説話・物語系の文章は、07 年、08 年、10 年、12 年に出題されているが、今年は近世の説話からの出題であった。
・昨年同様和歌に関連する設問があった。
・昨年なかった現代語訳の問題が復活した。

＜本文分析＞

大問番号	三
出　典（作者）	『雑々集』
頻出度合・的中等	出典・出題箇所は稀　11 年実施＃２京大即応ＯＰ理系国語の三に的中。
分　量 前年比較	**分量（減少・変化なし・増加）**　約 350 字（前年約 300 字）
難　易 前年比較	**難易（易化・変化なし・難化）**

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
三	説話	問一	記述式	やや難	理由説明問題。男の思った理由を説明するのであるが、「何事につけても拙からず、琵琶、琴弾き、草紙、歌のみ心深く、世の事わざや後れたりけん」「心あはず」の内容をまとめるところがポイント。（解答欄３行）
		問二	記述式	標　準	現代語訳。「文意が明らかになるように、ことばを補って」の条件が付いている。「言ひ出づ」の具体的な訳出、「いかなる」「折節」の訳出、「～か～ん」の文法処理などがポイント。（解答欄２行）
		問三	記述式	難	気持ちの説明問題。和歌の一部が設問に引用され、そこからわかる女の気持ちを説明するのだが、「和歌全体を踏まえて」の条件が付いている。和歌の現代語訳自体が難しく理系生には難問である。（解答欄４行）

※難易度は５段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の内容を正確に理解する練習を平素からおこなっておくこと。それによって説明問題にも対応できるのである。
・本文全体を現代語訳できるかどうかが京大理系古文の根本である。現代語訳を記述する練習がいちばんに望まれる。
・和歌にかかわる問題が昨年に続いて出題された。和歌の対策は必ずしておきたい。

© 河合塾　2015 年